

インターバンクの声（2015年7月31日）

7月の米連邦公開市場委員会（FOMC）を終えても、連邦準備理事会（FRB）の利上げが引き続き年内と考えている市場参加者はまだまだ多いようだ。また、9月か12月どちらかとの見方についても、依然として5分5分のような感触だ。ごく少数が10月の可能性に賭けているようだが、当然ながら9月に見送られることになった際には、より10月利上げ説がクローズアップされることになるだろう。足許の市場はFOMCが済んだことで、一旦夏休み相場入りとなってしまったような気もするが、昨夜は次回FOMCに向けての大切な判断材料となる指標第一弾となる4-6月期の米国内総生産（GDP）速報値の発表が注目された。市場予想よりも若干弱い年率換算で前期比2.3%増だったが、1-3月期の数字が上方修正されたことや個人消費の強い数字もあって、取り敢えず昨日はFRBの年内利上げに対する見方が強まった。来週の雇用統計も波乱なく消化されれば、恐らく9月の利上げ実施の可能性が一段と高まることになるだろう。問題は市場が124円台から再度125円台に踏み込む流れが醸成されるかどうかだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。